

北稜KESだより2021

京都府立北稜高等学校

令和4年 2月 28日 (月)



1年生環境動画発表会の



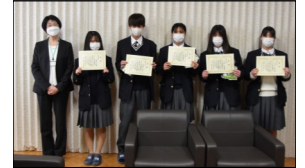
特別号



優秀作品を紹介します！

1年生ではLHRの時間を活用し、1人1本の環境動画作成に取り組んできました。これは、教育の柱として環境教育を掲げる北稜高校ならではの取り組みとして今年度初めて行われたもので、2月2日・9日のLHRでは1年生全員で動画を鑑賞し、評価しました。選ばれた優秀作品などを環境教育主任のコメントとともに紹介します。

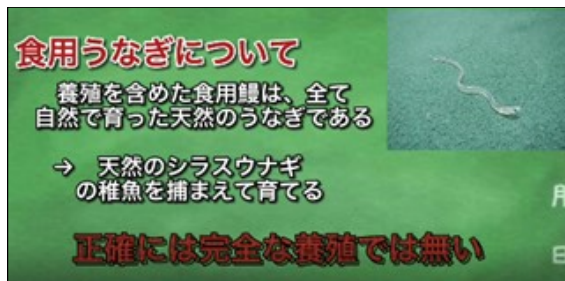
表彰式の様子▶



<入賞作品>

1

『ふざけるな！ウナギを食うな！』



楽しいアニメーションを多用して、最後まで飽きさせない展開に仕上がりました。人間活動による生物の絶滅を身近なウナギに絞って具体的に展開しているので説得力があって面白いものに仕上がっています。持続可能な漁獲量や消費量を設定するなどしっかりと保全対策も示されていて良かったです。

2

『海のプラスチック問題』



海洋プラスチック問題の原因から回り回って人間が食べてしまうまでの流れがうまくまとめられていてとても分かりやすい動画です。文字や画像のアニメーションも効果的に使われていて完成度を高めていました。プラを減らす総合対策だけでなく、海洋に出さないための具体策も聞きたいと思いました。

3

『過放牧と砂漠化』



砂漠化の原因のひとつとして、家畜の過放牧による土壌劣化や森林減少があることに気づかされました。もちろん元はといえば人間の欲求を満たすため。人間活動が環境に大きな負荷を与えている実例ですね。砂漠化という大きなテーマを一般的に取り上げるのではなく、人間の食欲から具体的にアプローチした点が評価できます。



4

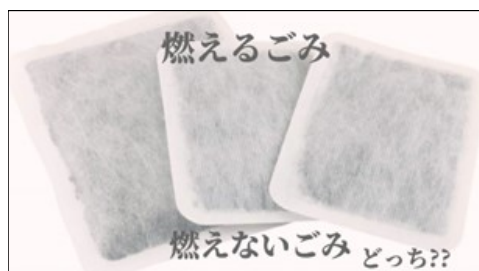
『洋服・衣服ロス』



新品やまだ使える衣服の廃棄量が年間33億着、国民1人あたりおよそ30着を廃棄しているとは驚きでした。ファストファッションの流行やトレンドの細分化などその背景を押さえている点や、フリマの利用や寄付、販売店の衣服引き取りシステムを利用するなど対策も押さえられていたのがいいですね。写真やイラストをテンポよく動画に組み込み飽きさせない展開もできていました。



5

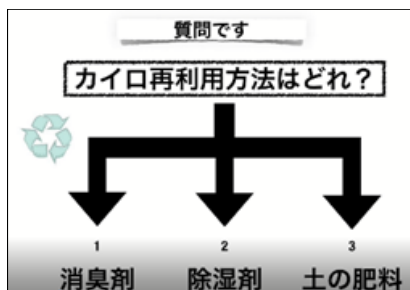
『本当にそれであって？？
正しいゴミの分別』

「カイロは燃えるゴミ、燃えないゴミ？」の問いかけから始まり、保冷剤、CD、歯ブラシなど分別を間違いやすいものを取り上げました。そうだったのかと納得したり、でも京都市では違うかもとか、とにかく分別について考えさせるインパクトのある動画でした。生ゴミは水を切ってというところは、エネルギー削減の観点をしっかりと入れていてよかったですよ。

< 番外編 >

5位までに入賞している作品の他にも面白いものがありました。以下に2点紹介します。

『そのカイロ 捨てる前に再利用』



使い捨てカイロが消臭剤、乾燥剤、ガーデニングの土壌改良などに役立つとは驚きです。しかも、どれも簡単です。いいことを教わりました。



< 全体を通して >

どの動画も大きな環境問題を外から見て説明するのではなく、身近なもので具体的に説明し、自分たちの問題として取り上げた点が素晴らしいです。「環境教育」を教育の特色として取り組んできた北稜高校だからこそできた取り組みといえるでしょう。また、今回の取り組みは、本校のもう一つの特色である「表現活動」としても大きな成果を上げました。各クラスで行われた動画視聴では、どんな動画をつくれれば相手に分かりやすいか、どうすれば魅力的で最後まで飽きさせない展開ができるかなど、全ての動画にその工夫が感じられました。そして、それを視聴する態度も真剣かつ共感的で、北稜ならではの温かい雰囲気が感じられたことが何よりの収穫でした。

今回の発表が、これからの学習、そして卒業後の社会生活にも生かされていくことを期待しています。みなさんよい発表をありがとうございました。

『森林破壊について』



森林破壊の影響で、森林で生活していた生物がすみかを追われ人間と接触する機会が増え、生物がもっていた細菌やウイルスが人間に広がるという部分。人間活動による環境破壊は回り回って結局は人間に帰ってきますね。自然のつながりを意識させる作品でした。